

「鶺鴒殿を遊ぶ ～夢・水辺を創る」 40年目の記録

2015年10月

鶺鴒殿ヨシ原研究所、鶺鴒殿クラブ

小山弘道



「鶉殿のヨシ原は世界の財産です」
鶉殿を遊ぶ・40年の
活動をお話しします。



鶉殿ヨシ原研究所長
小山弘道
2015年10月2日

こんにちは小山弘道です

私のふるさととは鹿児島県出水(いずみ)市、
ツルたちが冬に来て暮らします。

山と川と海で遊んで育ちました。

東京の大学、大学院で勉強し、

大阪市立大学理学部附属植物園に勤め、

研究をしました。専門は植物生態学です。

交野市から鶺殿に通っています。



写真:出水市HP

うどの、素晴らしい！ 歴史的景観

天王山、比叡山、男山（石清水八幡宮）、
永い歴史を作ってきた景色が見渡せる

天王山



比叡山



男山



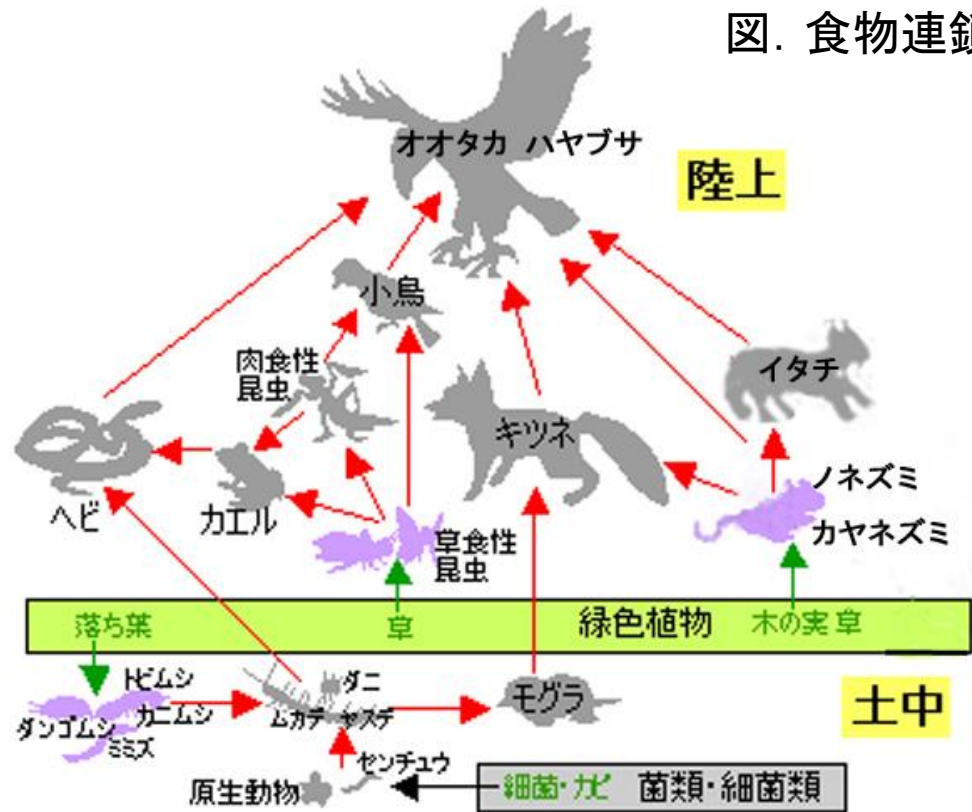
「土佐日記」 紀貫之が見た 風景、
何百年、何千年と変わらない景色

.鵜殿 都市河川の希少な水辺

広さ75km²、川の水面から7m高い。
生態系は豊か。



図. 食物連鎖



ヨシの調査を1975年に始めました

- 1971年～淀川の改修、川幅広げる、川底掘り下げ。
鵜殿は水に浸からなくなった、大きな変化。
湿地が乾燥して、水辺の植物、ヨシが激減！
1974年（昭和49年）ヨシ 27%
1982年（昭和57年）ヨシ 8%
- 1975年（昭和50年）高槻市からヨシの調査の依頼、
調査区を設定、ヨシの生育状態を測り始めた。
- 1985年（昭和60年）「鵜殿のヨシ原」保全対策調査研究
報告書—都市における自然の再生—。高槻市発行

1995年、国の保全事業始まる、ポンプで揚水

河川改修で川が低下。増水時に鵜殿が浸からない！
ヨシ原が乾燥、ヨシ激減。 湿地環境が必要。



鵜殿は淀川より
約7m高い！

春から秋に揚水、
水路で広げる。

揚水無しに湿地は
維持できない。

法律が改正され、自然環境の保全が始まった

- 河川法が、1997年(平成9年)に改正
目的：治水、利水に「河川環境の整備と保全」が追加
種の保全、生態系の保全、景観の保全

ヨシは増えた？ 調査で明らかに

- 国交省の保全事業の効果は？
ヨシの大きさを測り、植物の種類を調べています。
ヨシは増加した！ 1982年 8% → 2012年 29%
水をくみ上げ流したので、湿地の環境が回復。

揚水ポンプ、導水路 ヨシ群落に成果！

調査を続けることでヨシの経年変化を明らかに。

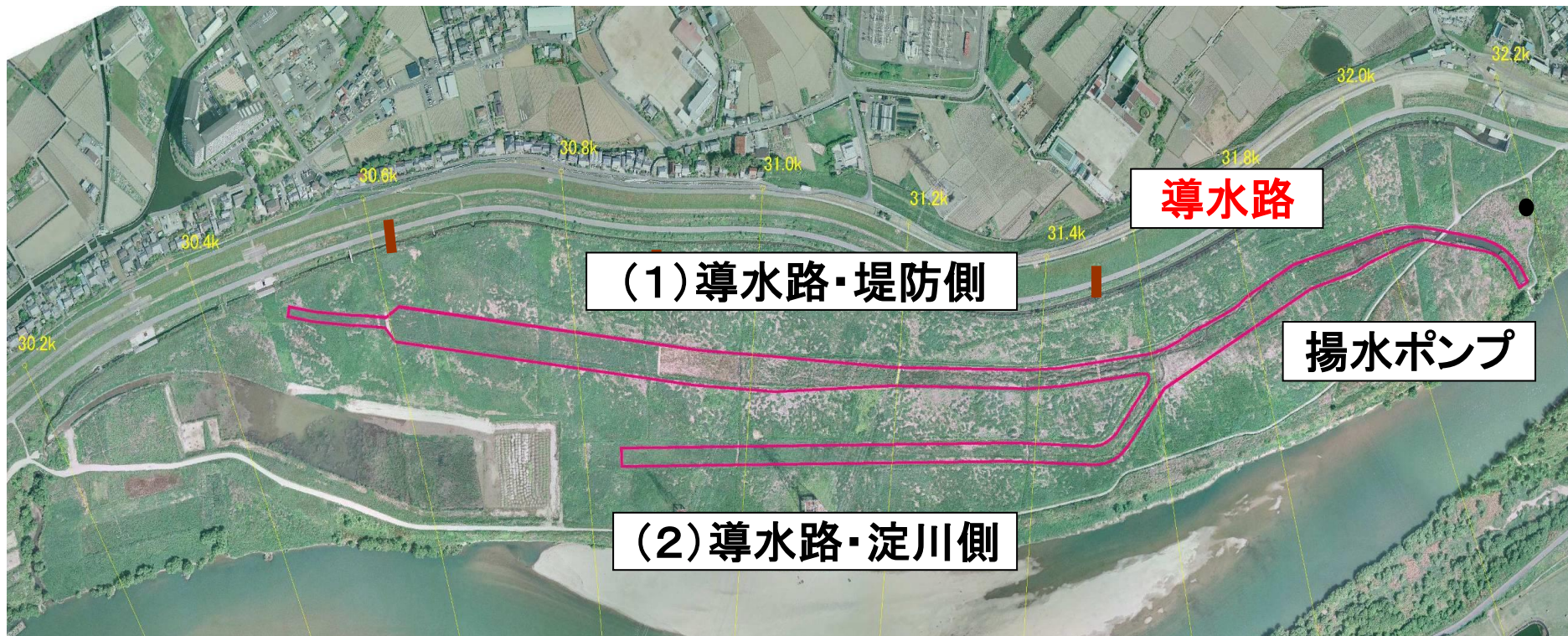


図. 鶺殿 揚水ポンプ、導水路

(淀川環境委員会 平成25年7月資料から引用、文字は鶺殿ヨシ原研究所)

鶺殿ヨシ原研究所

大型草本 ヨシ、オギ、セイタカヨシ

ヨシ 茶色の穂、オギ 白色の穂、セイタカヨシ 冬でも茎・葉は緑色



ヨシはイネ科

春に芽生え、夏に穂を出し、秋に熟す。
冬に刈り取る、1年



.地下茎に栄養を貯める

地下茎(ちかけい)の長さを調査、
1×1×1.8mの範囲で100mもあった。
適した土壌は深さ約2mが必要。
地下茎の寿命は5年。

写真は
2003/6/27に
調査、撮影。
「所さんの目
がテン！」
日本TV放送
2003/7/13



ヨシに巻きつき倒し枯らす ①カナムグラ

鶺鴒殿は乾燥化し、つる性植物が育ちやすく、ヨシ激減。

対策：3～6月芽生えの芽を抜く。毎日無数の芽生え！



ヨシに巻きつき倒し枯らす ②ゴキヅル

ゴキヅル 水路で育つ。3～6月に芽生えを抜いて減らす



希少種 揚水、ヨシ刈り、利用、ヨシ原焼きで育つ

3月～4月 ノウルシ、ミコシガヤ、トネハナヤスリ 日本で数カ所



希少種を 踏んで歩くや 観察会

希少種多数

調査で大阪府の生育が明らかに

アゼオトギリソウ、

サワトラノオ



鵜殿ヨシ原研究所

昆虫 鳴く虫の仲間(バッタ目)を注目してみると

バッタ目は45種が鶺殿で記録。

大阪府における保護上重要な野生生物の、

要注目種 「クツワムシ、クルマバッタ」が、生息

クツワムシ♪ガチャガチャガチャガチャ ツユムシ♪ジジジジジジ♪



野鳥

オオタカが、コサギを捕らえた！生態系



猛きん類のえさ場、ツバメねぐら、オオヨシキリの巣



ハイタカ



ハヤブサ



オオタカ



けもの 草原:カヤネズミ、イタチ、キツネ、タヌキ

カヤネズミは **絶滅危ぐ種**の県多い。大阪、京都では**要注目～準絶滅危惧**

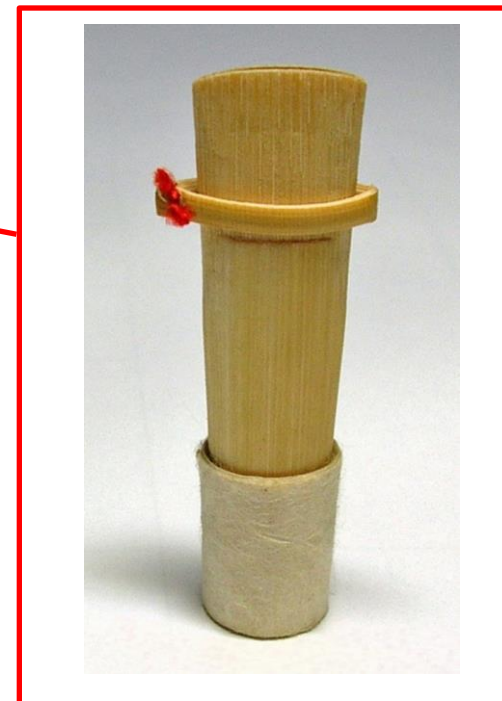
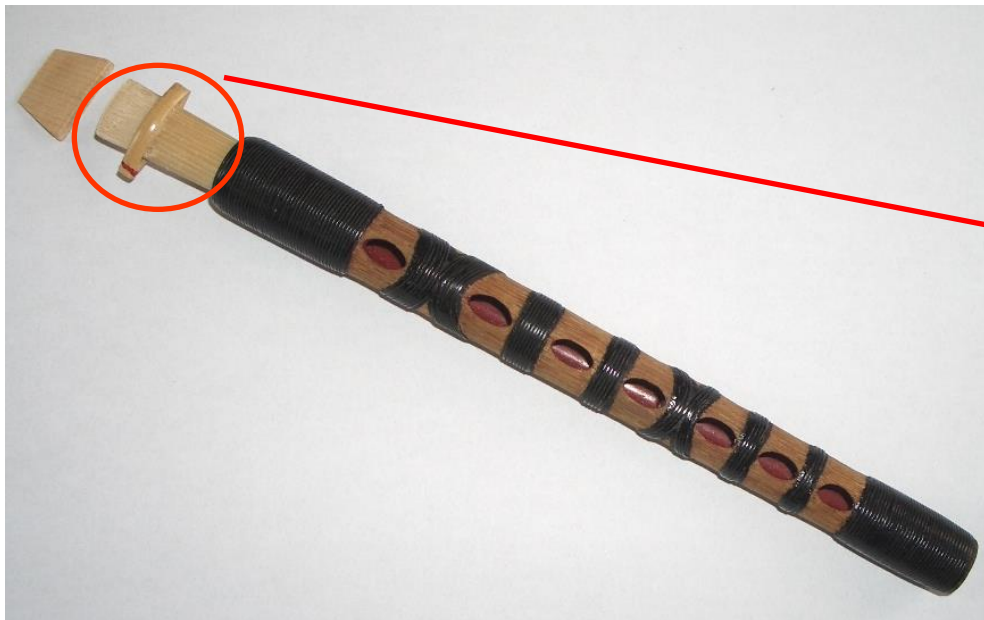


イタチ、 キツネ、 タヌキ(草刈り作業の近くで毛づくろい、私は緊張)

世界無形文化遺産「雅楽」を支える

楽器「ひちりき」のリードのヨシは、**鶺殿が最上の産地**
人が育てるから。刈取り、ヨシ原焼き。ポンプで導水。

新名神高速道路の建設着工が決定、その影響は？



「雅楽」千数百年の歴史、神社や仏閣の祭祀
宮内庁楽部が選り使うのは鶺鴒殿のヨシだけ。



写真提供：宮内庁式部職楽部

鶺鴒殿ヨシ原研究所

・鶺鴒殿のヨシは世界の宝

ひちりき のリード(ろ舌)は、
鶺鴒殿の「ヨシ」が最高。



雅楽1300～1400年の歴史、
「楽家録」に(1690年、320年前)
「古来 摂津国 鶺鴒殿の地に生ずるところの
蘆、これを用ゆ」と記される。

鶺鴒殿のヨシが永年使われ続けてきた。

雅楽コンサートを主催、継続して開催



2000年ヨシ原焼き
鵜殿ヨシ原で開催、
演奏：大阪楽所

2004年「ヨシ・水・音」
雅楽コンサート
高槻市立五領小学生、
雅楽団体の指導を受け、
楽器ひちりきで
♪「ふるさと」を演奏、
観客350人の満員

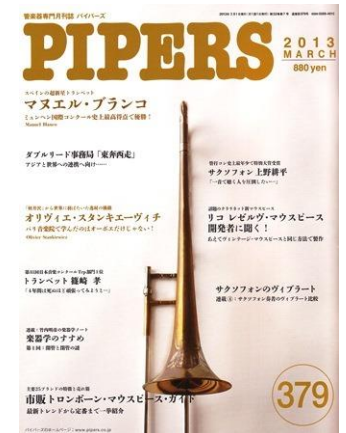


さらに、雅楽を支える鶺鴒殿を広める

2006～ 宮内庁雅楽部楽師の鶺鴒殿見学を案内始める

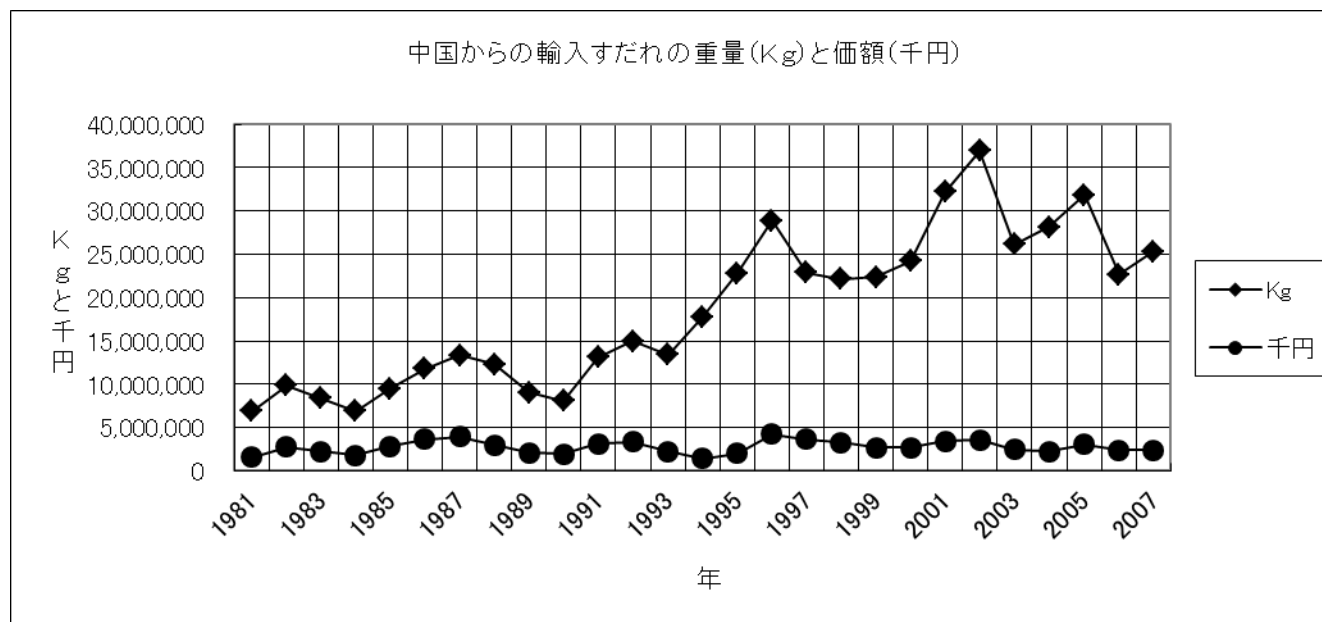
2007、2013 雑誌、邦楽、管楽器専門誌の取材記事

2010 枚方市で、ひちりきの「ろぜつ」製作実演とお話



.水辺が見捨てられた原因：国産ヨシズの利用減

ヨシ製品の輸入増加、国内産減少、地場産業衰退
(図.すだれの中国から輸入、重量と価格の経年変化)



市民が守る取り組み：鵜殿ヨシ原研究所

目的：「鵜殿(うどの)」の自然と生き物を守り、
ヨシ原が人の暮らしと繋がるよう、
「世界無形文化遺産(雅楽)を支える」、
鵜殿の様々な価値を高めること。

研究者(所長)と市民が活動を行うボランティア
団体です。参加者は高槻市のほか近畿各地

1976年 高槻市から大阪市立大学の小山へ
依頼、市の環境保全課とヨシの調査を開始

. 鶺殿ヨシ原研究所

2001年 鶺殿ヨシ原研究所を設立

1975年からの調査を、市民参加で継続しています

調査は年間50週、小山の活動は年間200日以上



鶺殿ヨシ原研究所

・活動のポイント

1. 調査をして記録、継続する

調査区、ヨシの生育状況(高さ)を測り記録

2. 鶺鴒ヨシ原研究所、鶺鴒クラブ 市民参加

参加しやすい方法、社会に活動を伝える

3. ヨシ帯の生き物,気象,文化などを調査

4. ヨシ利用を創る「ヨシ紙、お箸、燃料」

活動は広がります

1. 自然調査を毎週、観察会を毎月、随時
2. 活動を広める、展示会を継続して開催
3. 葦活用：新価値「ヨシ紙、お箸、燃料」
4. 世界無形文化遺産「雅楽」を支える
5. 河川事務所に保全事業の方法、継続や高槻市に種々の提案、協力

. 調査を開始、継続する

1975年 ヨシが激減, つる性植物・カナムグラが急増

1975年 調査を開始、ヨシ生育状況、カナムグラの数

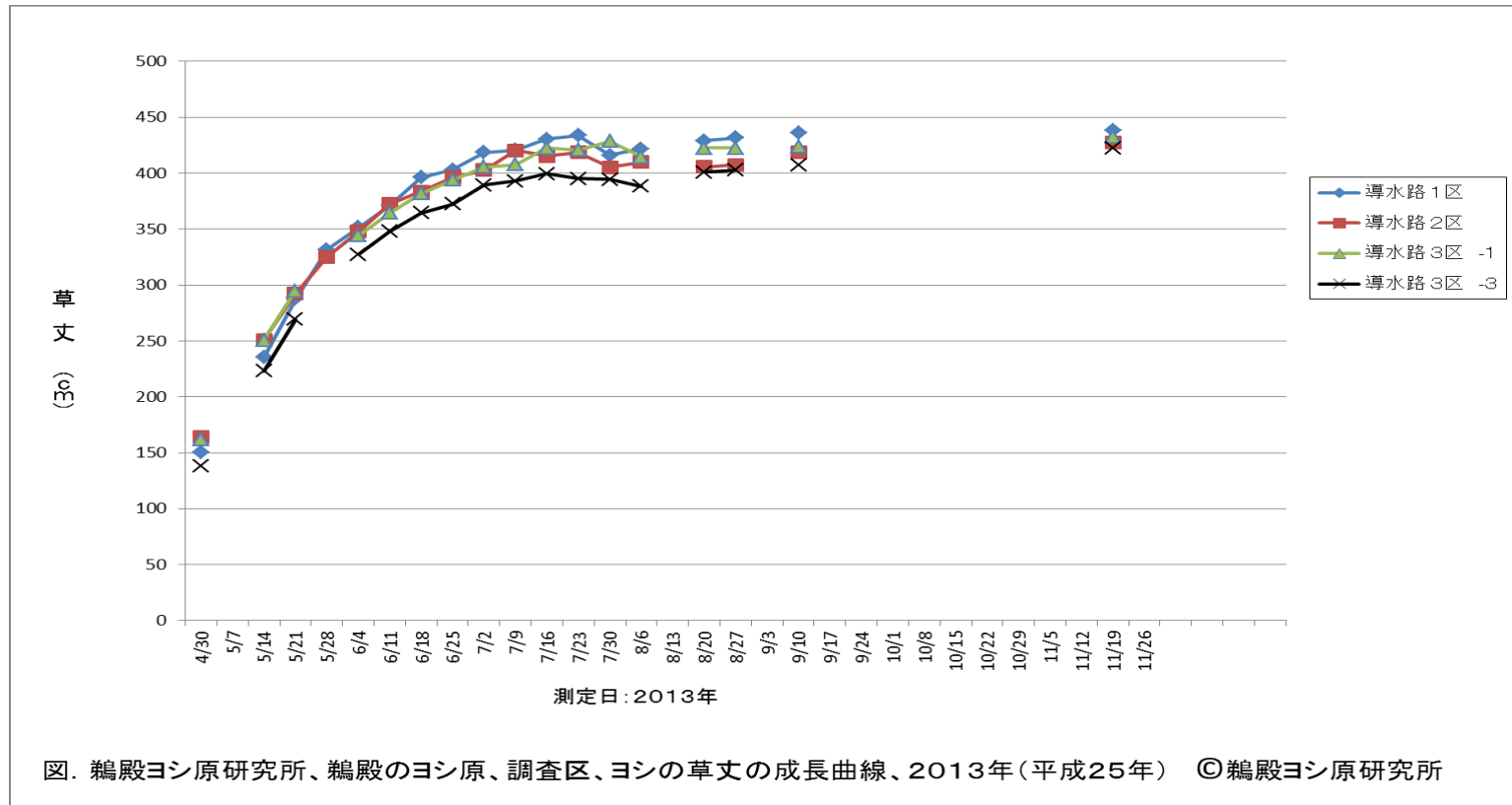
1996年 導水路に
調査区を設置、
各種調査を継続

内容はヨシの調査、
植物、地下水位、
気象、生物など



調査 1996年から20年、ボランティアが参加

調査区を現在10カ所設置、毎週1回 ヨシ成長を計測、冬は約1300本を刈り取って測定。



測る、記録する 参加者を募集中、初心者歓迎

葦の成長や植物、生き物、データや写真で

地下水位や気象も観測



鶺鴒ヨシ原研究所

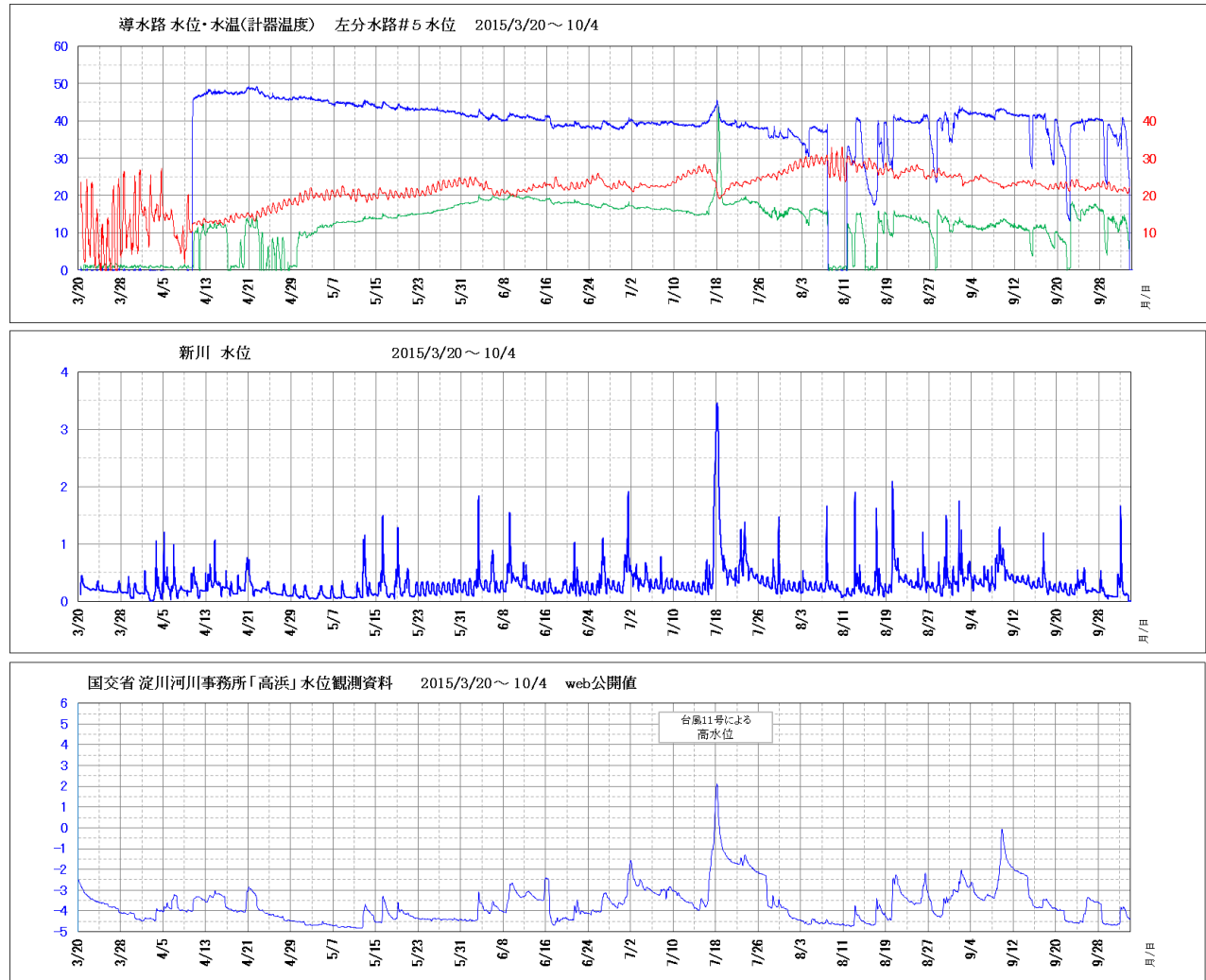
「気象観測 自然と生物の保全の「基礎資料」

- ・種々の植生がどのような気象水象環境下で年々生育しているのか、保全対策の結果の評価のためにも、
年毎の生育環境の違いを定量的に把握する必要がある。
- ・水文気象観測 項目: 気温、湿度、風向風速、
地中温度、導水路水位、水温、新川水位など
- ・建設省河川工事事務所が(財)日本気象協会
に委託、1998年5月～実施、5年間のみ。
- ・引き続き、当研究所ボランティア(気象専門家)
により観測が継続。



「気象観測」

図1
導水路の
水位、水温。
分水路の
水位
図2
新川水位
図3
国交省公開
データ
淀川水位
「高浜」
地点



鵜殿クラブ 会員を募集中

1998年 参加者が「うどのクラブ」(市民団体)を発足

会報を毎月発行、現在193号、鵜殿と活動の記録

観察会を毎月開催、多くの人に鵜殿を活動を伝えたい



鵜殿ヨシ原研究所

観察会を毎月、随時、開催

- ・毎月1回以上の観察会、室内講座などを1988年から継続。
- ・観察、調査、保全のためのヨシ刈り、草木染めなど多彩に



美しい、懐かしい、静けさ、おおらか、ぶらぶら・・・

展示 保全には、多くの人に伝えることが重要

1999～2004 鶺殿のヨシ原フェスタ、6年で9回開催

2005～現在 「高槻エコフェスタ」などで展示、体験

鶺殿ヨシ原研究所と鶺殿クラブで協力、開催



鶺殿ヨシ原研究所

伝える

- ・ 2005/4「みどりの愛護」の集い
皇太子殿下に鶺殿をご説明。
高槻市からの依頼、
雅楽ひちりき、小学生ヨシ工作



- ・ 2005/8～2006/2 高槻市HP,「みんなのブログ」で連載
- ・ 2006年「全国都市緑化おおさかフェア」に参加。
3月25日～5月28日の65日間、大阪城公園
鶺殿と活動の紹介、ヨシ工作、ビオトープ、
ヨシ笛演奏、トーク&コンサート出演など。
- ・ 東京から発信！ 「河川環境展」2005 に出展。
「エコプロダクツ」日本最大級規模の環境展、
2009/2010/2011/2012 山田兄弟製紙ブースで鶺殿紹介

鶺鴒を伝える パンプを製作(1) 夢・水辺を創る



～鶺鴒のヨシ原～
夢・水辺を創る

鶺鴒のヨシ原の自然

「鶺鴒のヨシ原」は、淀川上流30km～32.5km地点、三川合流点から2.5km下流にあり最大幅400m、面積約75haの淀川最大の河川敷です。その名の通り、近年までヨシ群落を中心とする水辺の植物群が生育していました。しかし改修が進み淀川の水位が低下し、地下水位が低下してヨシ原が乾燥してきました。現在地下水位は地表から5～6mです。そのためにセイタカアワダチソウ、ツル植物のカナムグラ、ヤブガラシなど陸地の植物の生育地が大きくなり、今では原野と呼ばれるほど植物群が変化しました。

毎年2月初めに行われるヨシ焼き(野焼き)もここで暮らす動物と深くかかわっていますが、ヨシを資源として利用するために、火災を未然に防ぐために管理上必要なです。

導水を引き金に、今後植物群、動物群が変化し、ヨシ原の景観、生態系が変化します。一方で改修は進み、さらに河床は低下します。鶺鴒の自然とは一体何なのか、難しい問題が生じています。

よく見られる植物

春～初夏	夏～初秋	秋～初冬
カササゲ コウヤワラビ セイヨウカラシナ セイヨウタンポポ ノウルシ ハルジオン ヘトオキバコ ホトケアザミ ミコシゴヤ ヤブガラシ	イヌゴマ イヌタデ ガガイモ ヒメジョオン ヒルゴオ フタクサ ホトバユクサ メハキキ ヤブジラミ ヨシ	アキノノゲシ オギ カナムグラ カラムシ クズ セイタカアワダチソウ セトカヨシ ツルマメ ヒガンバナ ホシアサガオ

復元活動のこれまで

昭和46(1971)年、建設省は200年に1回の確率雨量に対処し、治水上の安全度を飛躍的に高めることとした淀川の改修計画を発表、以後今日まで改修事業を行ってきました。そのために「鶺鴒のヨシ原」は昭和59(1984)年に降冠水がなく、乾燥が進み、水辺の植物、ヨシの生育面積が減少してきました。

ヨシ原復元のために、これまで主として次のような取り組みが行われてきました。

昭和49年、建設省淀川工事事務所(淀工事)は鶺鴒ヨシ原上流部に「ヨシ生育調査施設」を設置、「淀川河川敷生態調査団」に委託し、5年間調査しました。昭和50年から日本生態学会近畿地区「淀川問題検討委員会」は、ヨシ原保全に関して淀工事と交渉を続けてきました。

昭和52年、高槻市はヨシ原調査を開始、54年以降高槻市と高槻公害問題研究会は下流部に調査区を設定してヨシとヨシの大敵ツル植物カナムグラの調査を続けてきました。

野鳥を観察しています

通年	春～秋	秋～春
カワウ コサギ アオサギ カルガモ ハヤブサ カワセミ セグロセキレイ ヒヨドリ ホオジロ カウラヒツ スズメ ムクドリ カラス	コサドリ コノサシ アオジサシ カウゴウ ハヤブサ ツバメ オオヨシキリ ウグイス セッカ 鶺鴒 オオタカ ノスリ	マガモ コゲモ ヒドリガモ ハイロコウヒ タヒバリ ジョウビタキ ツグミ モズ 他にも1年を通して20種以上の野鳥が観察されます。

復元活動のこれから

平成2(1990)年、建設省河川局は「多自然型川づくり：(1)生物の良好な生育環境に配慮し、あわせて(2)美しい自然環境を保全あるいは創出する事業の実施」を提示しました。

それを受けて平成8年淀工事は淀川からポンプで揚水し、導水路で水を流し、ヨシ群落33haを中心にオギ、オギの生育状況、植物種の変化を調査し、10年には地下水位の測定、気象観測なども加えて揚水効果を調べています。今後は切り下げた移植試験地の調査も始まります。

四季にふれてみませんか

冬 結れヨシは天竺シ英と煙に包み
春の寒吹きと燃る
秋 定りの穂先は輝いたれ
夕日の中に種と種子
夏 の声は天上の音楽
春 淀川の山並みとなる風はのり
夏 美しい作れはも秋のヨシの葉のひる
秋 ヨシの葉のひる

調査に参加しています

小山 弘造
岩本紀美子
大阪シニア
自然学2期
有馬 純夫
長屋 昭義
林 圭美
仲秋 一郎

竹内キヨ子
立川 久
寺田 正博
芹澤 隆
谷岡寿和子
宮地 謙一
仲秋 豊子
中崎 俊夫

藤井 孟
佐藤 幸男
梅田 茂
小田切明男
高橋 弘志
藤本 修
生田 邦雄
香月 利明

《鶺鴒へのアクセス》

阪急京都線土御堂駅下車、淀川方面へ徒歩15分
(建設省淀川工事事務所山崎出張所方面)

《活動日》

毎週火曜日 10時～15時

平成11年(1999年)8月作成
1999年

- 1999/8
- 自費制作.
- ・概要
- ・自然
- ・復元活動
- のこれまで
- ・これから
- ・植物・野鳥
- ・四季
- ・調査

パンフを自主製作(1)夢・水辺を創る(裏)

ヨシ生育の定点撮影
(調査区 2区)

鵜殿地区
ヨシ保全
実験地

貴重な「鵜殿のヨシ原」を守るために
さまざまな調査活動に取り組んでいます。

淀川中流域で最大の「鵜殿のヨシ」が減少しています。
鵜殿は大阪府高槻市にあり、ヨシ原の面積は約75ha(甲子園球場約18個分)と、淀川中流域で最大の規模を持っています。鵜殿のヨシは太く、猪俣の乗船とチリキの吹き口や、すたれなどに古くから利用され、またヨシ原は自然の宝庫として広く親しまれてきました。しかし近年、ヨシは他の植物との生存競争に負けて減少し、以前のようなヨシ原は失われつつあります。

「鵜殿のヨシ原」位置図

鵜殿地区の主な優先群落面積 (1908-1997)

年	ヨシ	オギ	セイタカアワダチソウ	カナムグラ
08	65	10	15	10
10	60	10	15	15
12	55	10	15	20
14	50	10	15	25
16	45	10	15	30
18	40	10	15	35
20	35	10	15	40
22	30	10	15	45
24	25	10	15	50
26	20	10	15	55
28	15	10	15	60
30	10	10	15	65
32	5	10	15	70
34	0	10	15	75
36	0	10	15	80
38	0	10	15	85
40	0	10	15	90
42	0	10	15	95
44	0	10	15	100
46	0	10	15	105
48	0	10	15	110
50	0	10	15	115
52	0	10	15	120
54	0	10	15	125
56	0	10	15	130
58	0	10	15	135
60	0	10	15	140
62	0	10	15	145
64	0	10	15	150
66	0	10	15	155
68	0	10	15	160
70	0	10	15	165
72	0	10	15	170
74	0	10	15	175
76	0	10	15	180
78	0	10	15	185
80	0	10	15	190
82	0	10	15	195
84	0	10	15	200
86	0	10	15	205
88	0	10	15	210
90	0	10	15	215
92	0	10	15	220
94	0	10	15	225
96	0	10	15	230
98	0	10	15	235
00	0	10	15	240
02	0	10	15	245
04	0	10	15	250
06	0	10	15	255
08	0	10	15	260
10	0	10	15	265
12	0	10	15	270
14	0	10	15	275
16	0	10	15	280
18	0	10	15	285
20	0	10	15	290
22	0	10	15	295
24	0	10	15	300
26	0	10	15	305
28	0	10	15	310
30	0	10	15	315
32	0	10	15	320
34	0	10	15	325
36	0	10	15	330
38	0	10	15	335
40	0	10	15	340
42	0	10	15	345
44	0	10	15	350
46	0	10	15	355
48	0	10	15	360
50	0	10	15	365
52	0	10	15	370
54	0	10	15	375
56	0	10	15	380
58	0	10	15	385
60	0	10	15	390
62	0	10	15	395
64	0	10	15	400
66	0	10	15	405
68	0	10	15	410
70	0	10	15	415
72	0	10	15	420
74	0	10	15	425
76	0	10	15	430
78	0	10	15	435
80	0	10	15	440
82	0	10	15	445
84	0	10	15	450
86	0	10	15	455
88	0	10	15	460
90	0	10	15	465
92	0	10	15	470
94	0	10	15	475
96	0	10	15	480
98	0	10	15	485
00	0	10	15	490
02	0	10	15	495
04	0	10	15	500
06	0	10	15	505
08	0	10	15	510
10	0	10	15	515
12	0	10	15	520
14	0	10	15	525
16	0	10	15	530
18	0	10	15	535
20	0	10	15	540
22	0	10	15	545
24	0	10	15	550
26	0	10	15	555
28	0	10	15	560
30	0	10	15	565
32	0	10	15	570
34	0	10	15	575
36	0	10	15	580
38	0	10	15	585
40	0	10	15	590
42	0	10	15	595
44	0	10	15	600
46	0	10	15	605
48	0	10	15	610
50	0	10	15	615
52	0	10	15	620
54	0	10	15	625
56	0	10	15	630
58	0	10	15	635
60	0	10	15	640
62	0	10	15	645
64	0	10	15	650
66	0	10	15	655
68	0	10	15	660
70	0	10	15	665
72	0	10	15	670
74	0	10	15	675
76	0	10	15	680
78	0	10	15	685
80	0	10	15	690
82	0	10	15	695
84	0	10	15	700
86	0	10	15	705
88	0	10	15	710
90	0	10	15	715
92	0	10	15	720
94	0	10	15	725
96	0	10	15	730
98	0	10	15	735
00	0	10	15	740
02	0	10	15	745
04	0	10	15	750
06	0	10	15	755
08	0	10	15	760
10	0	10	15	765
12	0	10	15	770
14	0	10	15	775
16	0	10	15	780
18	0	10	15	785
20	0	10	15	790
22	0	10	15	795
24	0	10	15	800
26	0	10	15	805
28	0	10	15	810
30	0	10	15	815
32	0	10	15	820
34	0	10	15	825
36	0	10	15	830
38	0	10	15	835
40	0	10	15	840
42	0	10	15	845
44	0	10	15	850
46	0	10	15	855
48	0	10	15	860
50	0	10	15	865
52	0	10	15	870
54	0	10	15	875
56	0	10	15	880
58	0	10	15	885
60	0	10	15	890
62	0	10	15	895
64	0	10	15	900
66	0	10	15	905
68	0	10	15	910
70	0	10	15	915
72	0	10	15	920
74	0	10	15	925
76	0	10	15	930
78	0	10	15	935
80	0	10	15	940
82	0	10	15	945
84	0	10	15	950
86	0	10	15	955
88	0	10	15	960
90	0	10	15	965
92	0	10	15	970
94	0	10	15	975
96	0	10	15	980
98	0	10	15	985
00	0	10	15	990
02	0	10	15	995
04	0	10	15	1000

ヨシを守り育てるために、調査・保全に努めています。
地域の大切な財産であるヨシを守り、かつての豊かなヨシ原を回復するために、さまざまな調査・保全活動を行っています。

■導水
平成8年度より淀川からポンプで汲み上げた水を水路に流し、ヨシの成長を調査しています。

■移植試験
平成10年度に試験地をつくろう、淀川の水位とヨシの関係について調査しています。

- ・概要
- ・調査
- ・ヨシ生育の定点撮影
- ・調査内容

ヨシの成長を測ります

植物を調べます

ヨシ原に水を広げます

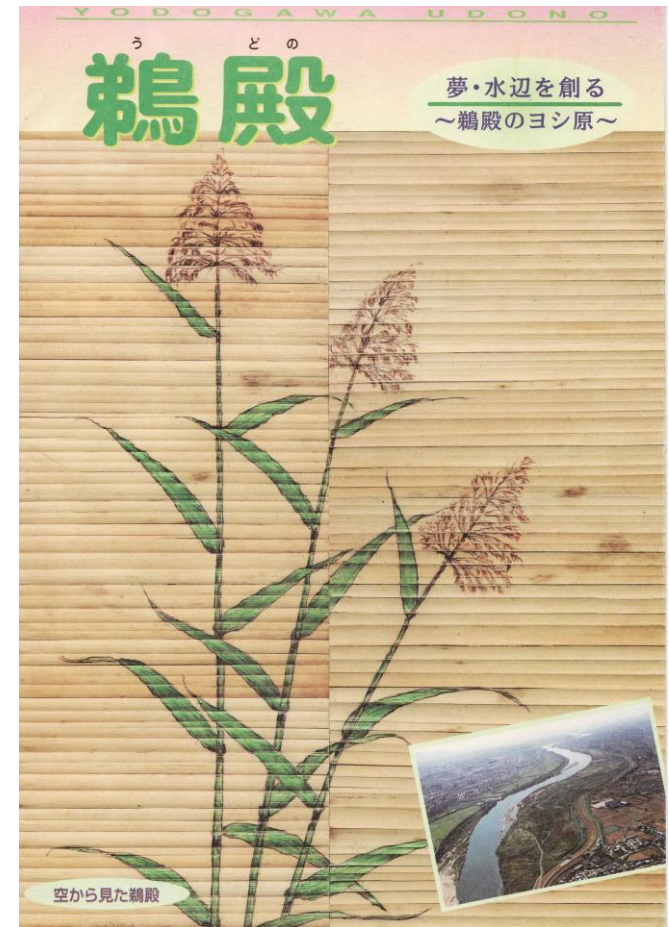
地下水位を測ります

微気象を観測しています

鵜殿ヨシ原研究所

パンフを新たに(2)

- ・2004年3月発行
- ・監修、写真、資料を提供
- ・発行:ラジオ大阪
LOVE遊-淀川実行委員会
- ・鶺殿の名の由来、植物ヨシ、
ヨシ原衰退、気象、保全事業、
鶺殿のヨシ原が大切な理由、
植物、虫、鳥、哺乳類、爬虫類、
両生類、
ヨシを使った工作品17種、
ヨシ紙
- ・用紙は鶺殿のヨシ紙に印刷、
山田兄弟製紙の和紙、ヨシ紙



パンフを最新に(3)

・2011年3月
パンフレットを製作発行。
「鶺殿を遊ぶ」
～価値ある水辺を創る～

フルカラー、サイズA4、
8ページ
鶺殿ヨシ原研究所のHPで
ダウンロードできます。
高槻市図書館に有り

助成金を活用



図鑑を制作、発行

・2011年3月
ハンディ図鑑
「鵜殿ヨシ原ログブック」

フルカラー、A5サイズ、
47ページ

高槻市図書館に有り

助成金を活用



マスコミに情報を発信



毎日新聞 2010年(平成22年)2月11日(木) 大阪 24

淀川物語

鶴殿のヨシで作った楽器をどう使うか
 楽器師 小山所 隆

高槻市の淀川の西岸に長さ約2.5km、最大幅約400mにわたって、高さ約5mのヨシが群生する「鶴殿のヨシ原」。鶴殿ヨシ原研究所の小山所隆所長(72)は研究して約30年。ヨシを身近に感じてもらうと、研究所のメンバーや市民ボランティアと共に調査・保全活動が続けてきた。「あくまでヨシは植物の一つ。でもこのヨシ原には多くの植物、虫、野鳥などの生態系がある。遠くに山を望む景観も含めて素晴らしい財産」と語る。鶴殿のヨシは古来より10年以上になるという上田幹雄さん(89)＝同市道鶴町＝は「全国のヨシとは堅さが違う。分厚くて茎の太さがしっかりあるのは鶴殿のヨシだけ」と太鼓判を押す。高山俊明さん(72)＝同＝も「良いヨシは穂が

そのため、1月中旬から2月中旬まで数回にわたり、「ヨシ刈り」や全体を焼き払う「ヨシ焼き」が必要になる。1月23日に淀川管内河川川レンジャーや同研究所が開催した「ヨシ刈り、ヨシ集め」には、市民団体やボランティア約80人が参加し、汗を流した。集められたヨシは福井県山田兄弟製紙により「ヨシ紙」に加工され、はがき、便せん、名刺などに生まれ変わる。

小山所は、1970年代の治水・利水を目的とした河川改修による淀川の水位低下が原因で起きたヨシの生育異常から、ヨシ原に水を取り込む排水ポンプの設置、近年の状況までつぶさに観察してきた。「広大な敷地をテーマとするのが面白そうだから研究を始めたが、気付けばのめり込んでいる。環境を保つには本当に多くの人の手が必要なんです。調査・保全活動を通して鶴殿のヨシ原を受け継いで行く『心』を伝えたい」と話している。

【広沢まゆみ】

人の手で保たれる自然

立派で一目見ればすぐ分かるよ」と言う。今月21日には「ヨシ原焼き」が行われる予定だ。小山所は「ヨシ原は里山と同じで、人の手が入って保たれていく自然」と話す。放置しておくとも水質悪化を招き、次に生えてくるヨシや「トネハナヤスリ」「ノウルシ」といった、希少な植物の生育にも影響を及ぼすという。

取組むべきあり方
 鶴殿ヨシ原のヨシ原

鶴殿のヨシ原

本の伝統芸能・音楽の楽譜の一つ、筆紙のリード部分当たる處舌に使用され、音楽の音を支えてきた。樂樂用のヨシを刈り取って

希少な植物の発育にも影響

鶴殿ヨシ原研究所

増えたヨシを利用、人の暮らしとつなげる

- 目的は、ヨシ原の保全のため。
ヨシ、草原の資源を使うことで守る。
- ヨシ原は、里山と同じように、
人が手入れ育て利用し守ってきた、半自然。
- ヨシの新たな価値に関心を持ってもらいたい。
- 「鶉殿の価値を人の暮らし、産業につなげたい」
ヨシの紙、バイオ燃料、ヨシの箸ができた！

ヨシ紙(越前和紙)、山田兄弟製紙の協力

- ・1999年「国際ヨシフォーラム」で鶺殿の保全を発表
山田が活動に賛同、2001年「鶺殿のヨシ紙」を開発。
- ・ヨシは冬にひたすら刈り集める。数百人が参加。
- ・ヨシ30%木材パルプ70%、葦紙使用で森も文化も守る



朝日新聞2010年6月26日
「ヨシ紙で保全もヨシ」



朝日新聞
2010年
6月26日

ヨシ紙で保全もヨシ

福井県の越前和紙メーカーが、淀川河川敷の鵜殿地区(大阪府高槻市)に広がるヨシ原を守るべく、ヨシを漉いた和紙の生産を始めて10年目を迎えた。鵜殿のヨシが雅楽器「ひちりき」の材料に用いられる縁で雅楽師の東儀秀樹さんが、今春発売されたヨシ紙のハガキなどにイラストを提供した。

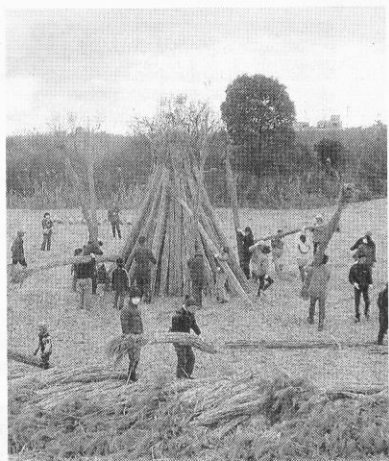
淀川・鵜殿

鵜殿は「土佐日記」にも登場する歴史的名所。ヨシ原は1970年代に始まった河川改修事業で激減したものの、その後の保全活動で回復した。多年草のヨシは毎年刈り取る必要があり、ボランティアが作業にあたっている。しかし、すだれ作りなどがすたれたこともあり、刈り取られたヨシは行き場をなくして燃やされるしかなかった。

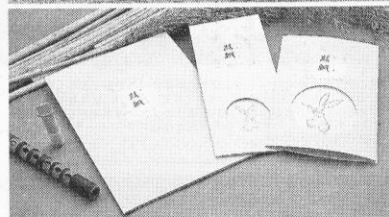
地元で鵜殿ヨシ原研究所を主宰する小山弘道所長(78)は99年、琵琶湖のヨシ保全を訴えるイベントを通じて、山田兄弟製紙(福井県越前市)の山田益弘社長(現会長)と出会った。「淀川でヨシを育てている」と語る小山所長に「紙にしてみましょ」と山田社長が応じた。

ヨシは木材パルプと比べて繊維が短く、強度が劣る。同社はすき方を工夫し、2年がかりでインクジェットプリンターに耐えうる強度を実現。30%のヨシパルプを混

市民と業者、連携10年目／東儀さんも協力



ぜた和紙は漂白剤を加えない生成りで、柔らかな手触りが特徴だ。2001年にヨシ紙の便せんやハガキを売り出したころは月数千円分しか注文がなく苦戦したが、環境意識の高まりで売り上げは徐々に伸びた。同社取締役の山田京代さん(45)は、「自分たちは廃水で川の水を汚している立場。水質浄化作用があるヨシの保全にかかわることで環境の負荷をゼロに近づけたい」。02年から毎年1月と



①鵜殿のヨシ刈りの様子。山田兄弟製紙の社員もボランティアで参加した＝1月、大阪府高槻市鵜殿
②鵜殿のヨシで作られた「淀の音色」シリーズ。東儀秀樹さんがうさぎのイラストを描いた＝いずれも山田兄弟製紙提供

2月、社員総出で鵜殿のヨシ刈りを手伝っている。昨年4月、鵜殿を横断する高速道路の早期建設を橋下徹・大阪府知事が国に要望した。これに対してヨシ原の保全を求める雅楽奏者や愛好家が昨夏、2万人以上の署名を集め、文化庁などに提出した。

鵜殿のヨシでできた吹き口のひちりきを愛用する東儀さんも署名活動に参加。昨年6月、小山所長から「鵜殿のヨシの知名度を上げるのは雅楽、守るのは紙。その両方がかかわる製品作りに協力してほしい」と関係者を通じて頼まれた東儀さんは、うさぎが雅楽器を奏でる姿をイラストにした。

ハガキセット(3枚入り、税込み500円)、「一筆箋セット(10枚入り、同500円)」、レターセット(便せん12枚、封筒5枚入り、同1800円)は「淀の音色」シリーズとして今年4月に発売され、同社のホームページ(<http://yamada-keiei.com>)で購入できる。「手紙になって遠くへ運ばれるヨシ紙に、小さく『鵜殿』と書いてある。受け取った人がそれを見て、ちょっと行ってみよっかな」と思ってくれたら」と小山所長。売り上げの一部は、ヨシ原の保全活動に寄付される。

◇
東儀さんのイラストが描かれたヨシ紙の展示会が7月6日～8月6日の午前10時～午後5時、大阪府枚方市岡本町のアトリエMay(072・844・1440)で

ヨシ紙② 展示会を毎年、開催

2011年「紙～連(つながり)～文化 鶺殿のヨシ紙」



ヨシ刈り、集め 誰でも参加できる、ヨシ原を育てる

2001年から毎年実施 刈る、運ぶ、集める、束ねる



鵜殿ヨシ原研究所

ヨシを使ってヨシ原を守る、昔ながらの。
日本で数カ所だけ、毎年、人気です。初めてでも面白い



鵜殿ヨシ原研究所

- 現代の用途があるから、未来の用途の為にも
ヨシ束を作る、立てかけ乾燥。ヨシ原焼き前に運び出す。
用途：昔はヨシズ、今はヨシ紙、ヨシ箸、未来はこれから。



鵜殿ヨシ原研究所

「のぼり」は居酒屋、趣味仲間、市民団体、会社と様々。



鵜殿ヨシ原研究所

ヨシ紙が、鶺殿を広く伝えてくれた

2010年アトリエMay、ギャラリー(枚方市)で

- ・鶺殿ヨシ原研究所が「淀川のウドノヨシ展」
「箆策、蘆舌の製作、実演会」開催、NHK放送7/23。

- ・アトリエMayが雅楽演奏会、ヨシ紙展を開催

- ・2011 韓国の順天湾へ、葦事業団の招待。

国際シンポジウムで保全活動やヨシ紙の講演

- ・ヨシ紙・文具は市役所の売店で販売、

照明、インテリアは西武高槻デパートで

販売と、広がりました。「高槻市のはにたんグッズも」



新たな利用「ヨシのバイオコークス」2006年

- ・バイオマスは光合成によって作られた生物体。
コークスは、炭。
- ・再生可能エネルギー、二酸化炭素を削減。



「今の技術なら、できそう！」
小山と高槻商工会議所が
近畿大学・井田氏に研究依頼
マスコミで多数、報道。
産経新聞3回掲載
朝日放送、NHKで特集。
2006/9/12.11/9

全国有数のヨシ群落が広がる淀川沿いの「鵜殿のヨシ原」(大阪府高槻市、約75畝)のヨシを燃料として活用する研究を進めている井田民男・近畿大理工学部講師(44)のグル

ープが、「バイオ備長炭」の開発に成功した。燃焼実験でも、最高級炭として知られる備長炭と似た燃え方をする事が確認され、実用化に大きく弾みがついた。

近大グループ開発 実用化に大きな弾み

このヨシ原には10〜15畝にわたってヨシが群生。毎年冬から春先にかけて野焼きされる。ヨシ原の保護活動をしている市民団体「鵜殿ヨシ原研究所」や高槻商工会議所などが有効活用しようと、井田講師に研究を依頼していた。

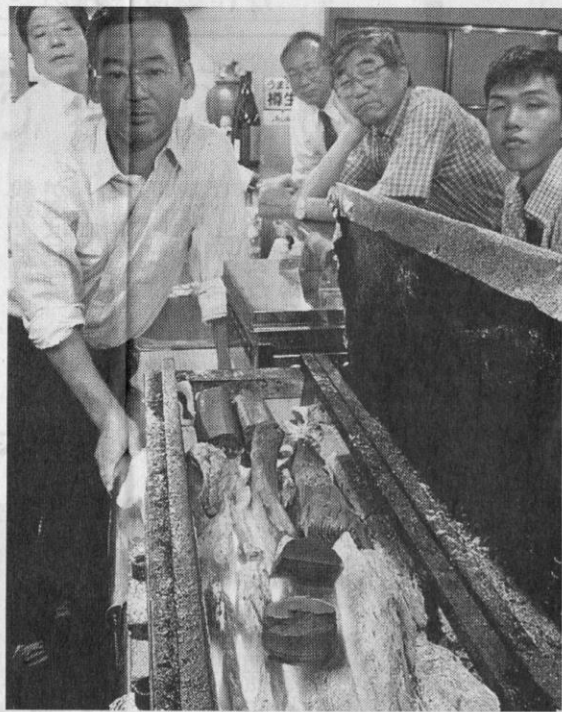
収穫後、乾燥させたヨシを2〜3、以下の大きさに砕き、型枠に入れて200度程度に加熱、成型した材料を、さらに300度の熱を加え、水分を取り除きながら圧縮するとバイオ備長炭ができる。

高槻市内の焼き鳥店で燃焼実験を実施。コンロに備長炭とヨシで作ったバイオ備長炭を入れて、火力や燃え方などを比較した。バイオ備長炭は黒から灰色に変化しながら約1時間にわたって、燃焼し続けた。通常の備長炭とは異なり多少の煙が出ることやひびが入ることなどを除けば、燃え方

淀川のヨシで「バイオ炭」

には差がなかった。焼き鳥店長の佐藤寛二さん(35)は「焼き鳥店は煙を嫌がるが、焼き肉の七輪で使うのなら問題ない。備長炭並みの燃焼時間もある」と太鼓判を押した。井田講師は「十分に使用に耐えられることが分かった。燃焼状態によって炭がもろくならないよう水分などを変えたい」と話し、

近く焼き肉店でも実験を行う予定という。鵜殿のヨシ原で1年間に見込めるヨシの収穫量は数十ト。備長炭の需要に比べて少ないため、同研究所では地元での消費を目指して商品化を検討している。



「ヨシのはし」2011年

参加が広がる！ギャラリーが企画、大学生がデザイン
鵜殿ヨシ研究所とボランティアが、ヨシを集めました。
ヨシ51%とプラスチック。「udono_ヨシボー」「高槻市はにたん」



箸でPR

ヨシ保全

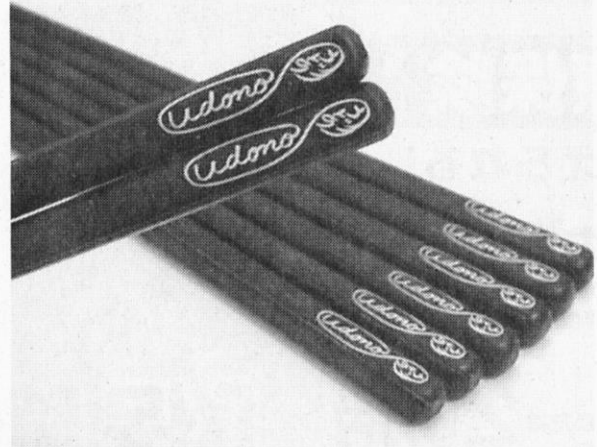
淀川河川敷の高槻市鶴殿地区(約75杉)に広がるヨシ群生地の保全に取り組む地元市民グループやギャラリ―が、ヨシを使った箸千膳を作り、昨年12月から販売を始めた。ヨシのゆるキャラ「ヨシボー」も活用し、鶴殿のヨシのPRに乗り出している。

高槻の市民団体など販売開始 砕いて材料に…

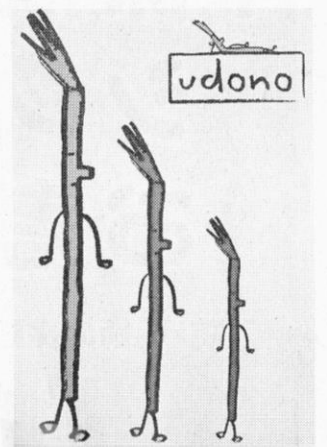
箸は、ヨシを砕いて約1センチ角にしたものにプラスチックの樹脂を混ぜて固めている。市民グループの鶴殿ヨシ原研究所(高槻市道鶴町4丁目)のメンバーが昨年2月に刈り取ったヨシ約20キロを原料に、京都市の業者が作った。国土交通省淀川河川事務所によると、国有地の鶴殿地区は淀川最大規模のヨシの群生地。1966年の調査では全体の約60%をヨシ群落が占めていた。しかし、70年代に始

まった河川改修事業で淀川の水位が下がって湿地帯が乾燥したため、ヨシ群落は80年代に約5%にまで減った。河川事務所は96年から鶴殿に水を流すためポンプを設置し、保全に乗り出した。ヨシ群落は2002年に約20%まで回復したが、原風景の復元には至っていない。

鶴殿ヨシ原研究所は約10年前から、平安時代の土佐日記にも登場する歴史的な名所の鶴殿のヨシ原の保全や生育調



「Udono うどの」のロゴが入ったヨシの箸一枚方市岡本町



箸のパッケージに印刷された鶴殿のヨシのゆるキャラ「ヨシボー」=アトリエMay提供

◀ゆるキャラも活用 よみがえれ淀川の群落

査を続けている。ヨシは1年草のため毎年刈り取る必要があり、太くて弾力があることから雅楽器「ひちりき」の吹き口や、すだれの「よしず」に利用されている。しかし、国産よしは安価な外国製品に押されていることから、枚方市岡本町のギャラリー「アトリエMay」などと協力してヨシを使った新商品づくりを始め、ヨシを混ぜた和紙でつくった便箋やはがきを販売している。

箸のパッケージには、母親がアトリエMayを営む京都造形芸術大3年の塩田菜津子さん(21)＝枚方市津田山手1丁目＝がデザインしたキャラクター「ヨシボー」を登場させた。「親しみを持ってもらえるよう、素材ではのほのとした雰囲気にした」と話す。

研究所を主宰する元大阪市立大付属植物園助手の小山弘道さん(74)は「自然の保護活動は、市民の関心がないと廃れてしまう。ゆるキャラや箸で鶴殿のヨシを知ってもらい、身近な自然に目を向けてもらうことが大切だ」と話す。

1膳420円。利益の一部は研究所が鶴殿のヨシの周知活動に使う予定。問い合わせはアトリエMay(072・844・1440)へ。

(川田博史)

草資源を「バイオ燃料に」2013年から

- ・植物を大量に集め、製造施設でエタノールに。ガソリンと混合し、バイオガソリンに。
- ・高槻市役所の協力、企業の社会貢献活動ニッケ(日本毛織株式会社)の支援で実現
- ・毎日新聞 2013年3月5日
「鶺鴒のヨシバイオ燃料化、
民間の研究所新たな活用策」
- ・課題解決 ヨシ以外の植物も大量活用できる！

「鶺鴒が生産の場所となった！」

毎日新聞
2013年
3月5日

鵜殿のヨシバイオ燃料化

高槻・群生地保護へ刈り取り

高槻市の淀川沿いに広がる「鵜殿のヨシ原」の保護に取り組む研究機関や住民グループが、ヨシをバイオ燃料として活用する取り組みを始めた。保護のために毎年刈り取っているが、日よけの原料としての需要が低迷し、多くは燃やしているのが現状。「環境に優しい燃料として役立つことで、保護に取り組む動機づけになれば」と意気込む。
【大久保昂】

民間の研究所 新たな活用策



バイオ燃料にするために刈り取られたヨシを見せる小山弘道さん

高槻市で

鵜殿のヨシ原は、高槻市鵜殿地区(約75畝)に広がる淀川水系最大のヨシ群生地で、土佐日記にも登場する。たくて弾力がある良質なヨシ産地として知られ、雅楽器「箏(ことうり)」の吹き口に用いられてきた。

国土交通省淀川河川事務所の調査では、1966年には同地区の81%をヨシが占めていたが、治水工事の影響で82年には8%まで減少。その後、同事務所や民間の研究機関「鵜殿ヨシ原研究所」などが復元に取り組んだ結果、11年には13%まで回復したが、往時の姿

にはほど遠い。同研究所によると、良質なヨシが育つには、毎年刈り取ったり燃やしたりする必要がある。かつては「よしず」や「すだれ」といった日よけの原料に使われていたため、刈り取る人がいた。しかし、安価な外国産の流入などでこうした産業は衰退。地元住民たちはほぼ毎年「ヨシ原焼き」を実施しているが、高齢化が進む。

「人の手が入らなくなれば、ヨシ原が荒れてしまう」。危機感を抱いた同研究所は、約10年前から箸や和紙などヨシの新たな活用策を模索してきた。今回の燃料化は、大阪市中央区の繊維会社「日本

毛織(ニッケ)が資金協力を申し出たことで実現。ヨシは糖質を比較的多く含むため、バイオエタノールの原料に適している上、トウモロコシなどと違って食糧向けと競合するところがないのが利点だという。今年は約5トンを取り、燃料を抽出して販売する予定。現在は資金協力頼みだが、将来的には採算の取れる事業を目指す。

同研究所の小山弘道所長(75)は「燃料としてヨシの用途が広がって刈り取る人が増えれば、持続可能な保護活動につながる」と期待している。

鵜殿ヨシ原研究所

ふるさとの景色、鶺殿のヨシ原を未来へ



鶺殿ヨシ原研究所

活動にご参加、ご協力、ご支援を頂いた
皆さまに感謝申し上げます。

この冊子は リコー社会貢献クラブ・FreeWill の支援に
よるものです。お礼申し上げます。

2015年10月、鶺鴒ヨシ原研究所